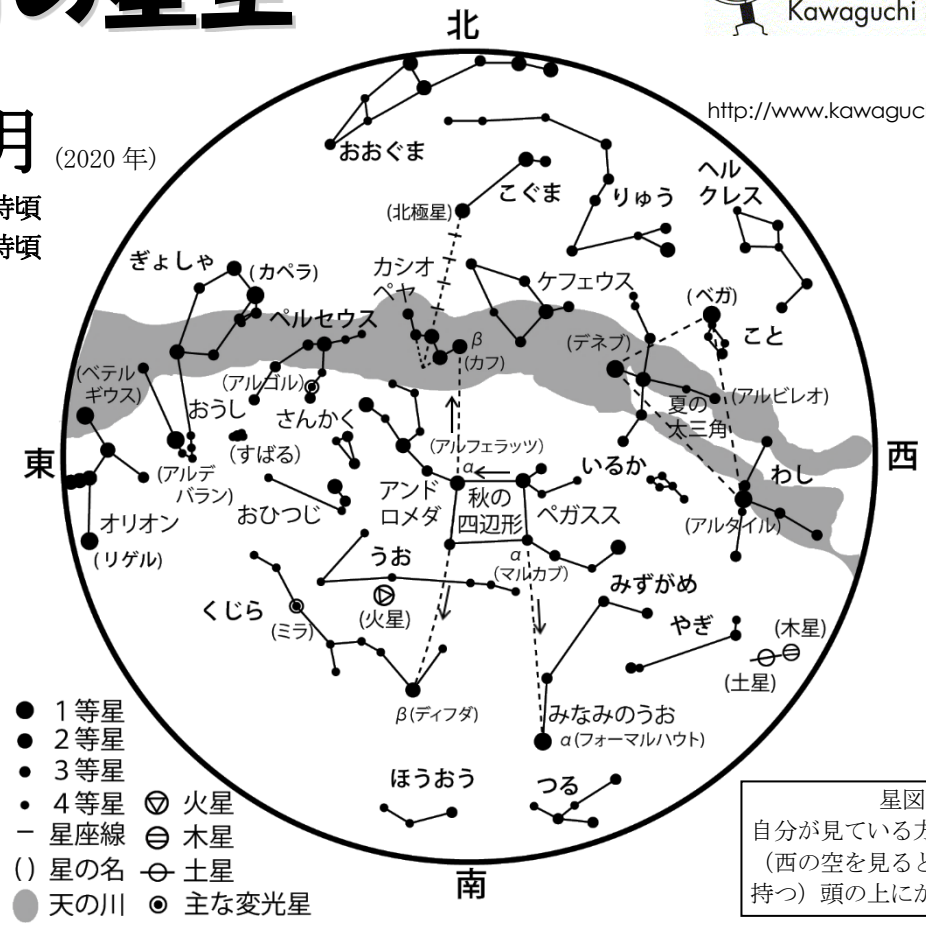
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum

11 月 (2020 年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、（西の空を見るときは西を下にして持つ）頭の上にかざして見ます。

月　齢　◑下弦 8 日、●新月 15 日、◐上弦 22 日、○満月 30 日

惑星情報

水星 明け方 東（おとめ→てんびん座 0→－1 等）※中旬のみ
金星 明け方 東→南東（おとめ→てんびん座 －4 等）　火星 夜のはじめ頃 南東→南（うお座 －2→－1 等）
木星 夜のはじめ頃 南西（いて座 －2 等）　土星 夜のはじめ頃 南西（いて座 1 等）

☆秋の四辺形からたどる星座と星の名前

10 月に地球に最接近した火星はまだまだ明るく、南の空高くに見えています。秋の星座探しは火星の近くにある秋の四辺形から始めましょう。星図のとおり、秋の四辺形の各辺を使うと、北東に連なるアンドロメダ座や南側にあるみなみのうお座α星「Fomalhaut フォーマルハウト」とくじら座β星「Diphda ディフダ」、北側にあるカシオペヤ座β星「Caph カフ」などが見つかります。

さて、主な星座の星（恒星）には、○○座α星や□□座 51 番星のようなギリシャ文字を使ったバイエル符号やフラムスティード番号などの識別表記の他に、「Vega ベガ」や「Altair アルタイル」などの固有名が付けられています。しかし、複数の名が存在したり、別の星に同じ名が使われたりと不都合が生じたため、国際天文学連合（IAU）は、2016 年、恒星の命名に関するワーキンググループにて、初めて主な恒星の固有名（実際にはアルファベット表記）を定めました。

☆一晩で 5 惑星が見える～惑星の位置と地球の自転～

11 月中旬は日暮れから明け方まで一晩観測すると肉眼で 5 つの惑星が見られます（上記「惑星情報」参照）。右図は、11 月中旬の惑星の位置と観測者の位置の変化を表したものです。図のとおり、地球の自転に伴って観測者の位置は刻々と変化するため、見える範囲が変わります。時系列に見ると、①夕方には木星と土星（南西）、②夜中には火星（南西）、③明け方には水星と金星（東）が見えます。ただし、水星は太陽に近く、動きも速いため、観測可能な時期が限られます。太陽から最も離れて見える西方最大離角（11 日）前後が見ごろとなり、近くにある金星が目印です。

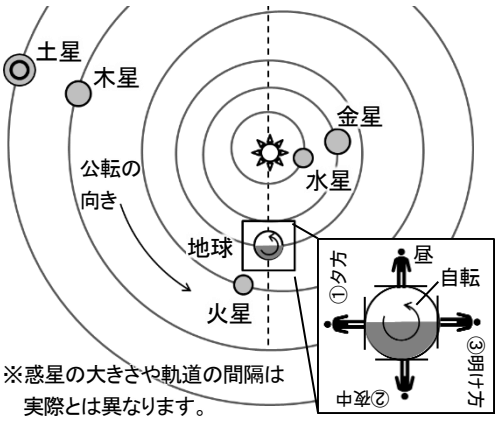


図 11 月中旬の惑星の位置と地球の自転に伴う観測者の位置の変化